

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会誌

ケアマネ通信 やまがた No.38

巻頭言

自立支援型地域ケア会議について

山形県健康福祉部 高齢者支援課長
佐藤 敦宏

山形県介護支援専門員協会の皆様におかれましては、日頃より、高齢者福祉施策の推進に格別の御尽力をいただき、感謝申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中、高齢者の不安に寄り添いながら、必要なサービスを提供するため御尽力いただいておりますことに重ねて感謝申し上げます。

さて、本県は全国でも高齢化が進行しており、令和3年10月現在の高齢者数は、約36万人、高齢化率は、約34%となっております。さらに、令和7年には、団塊の世代の方がすべて75歳以上となり、高齢者数が最大になることが見込まれております。

県では、令和3年3月に「やまがた長寿安心プラン（第8次山形県介護保険事業支援計画）」を策定し、「高齢者一人ひとりが自分らしく健やかに安心して暮らせる“幸せやまがた”の実現」を目指し、「介護予防や認知症施策、在宅医療との連携を推進」、「介護サービスの充実とサービスを提供する基盤の強化」、「高齢者が安心して暮らせるための地域共生社会の実現」の3つの「施策の柱」を定め、各種事業を実施しており、これらの「施策の柱」に基づき、地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組んでいるところです。

こうした状況の中、介護支援専門員は、地域包括ケアシステムを深化・推進していくために、重要な役割を果たす「要（かなめ）」として、ますますの活躍が期待されております。

御承知のとおり介護保険法の理念は、介護保険法第2条第2項において、「要介護状態等の軽減又は悪化の防止」、同条第4項において、「被保険者が要介護状態となった場合においても、(略)その有する能力に応じ自立した日

常生活を営むことができるように配慮されなければならない」と規定されており、高齢者の自立を目的とした制度になります。

この介護保険法の理念実現のため、県では、高齢者の要介護度の維持・改善など、高齢者の自立やQOL向上等を目的とした「自立支援型地域ケア会議」の普及・啓発に取り組んでおり、自立支援型地域ケア会議を開催する市町村に対して、理学療法士や作業療法士などの専門職を派遣し、それぞれの専門的な見地からのアドバイスや意見、提案等をいただく機会を設け、より効果的で自立支援に資するものとなるよう支援しているところです。

地域ケア会議には、被保険者の自立支援のみならず、多職種専門職による連携、出席者間の関係構築、参加者のOJTの場など、様々な効果があります。また、地域ケア会議の個別ケースを検討し、課題を分析し、積み重ねることにより、高齢者の自立支援に資するケアマネジメントを関係者の共通認識として地域に浸透させるとともに、地域の課題を明確化し、地域に必要な資源の開発につなげ、市町村の介護保険事業計画へ反映するなど、政策形成へ結びつける目的もあります。

それらを踏まえ、介護支援専門員の皆様には、地域ケア会議への個別事例の提供や出席等、真摯に御対応いただいているところですが、介護保険法の理念を念頭に、地域ケア会議の目的や効果を再確認していただき、市町村において円滑な地域ケア会議が開催され、高齢者の更なる自立支援につながるよう、これまで以上に地域ケア会議への御協力をお願いします。

最後になりますが、少子高齢化の進展により、社会環境が大きく変化していくことが見込まれる中、介護支援専門員の皆様には、これまで培ってこられた幅広い知識やネットワークを十分活用し、高齢者のみならず、県民全体の福祉の向上に引き続き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。介護の「プロフェッショナル」としての皆様益々の御活躍を期待しております。

巻頭言 自立支援型地域ケア会議について	
山形県健康福祉部 高齢者支援課長 佐藤 敦宏	1
理事会報告	2
臨時総会報告	3
賛助会員紹介	3

研修会報告	4
地区支部報告	5
各専門職から(Professional Comennt)	7
わんコラム	8
編集後記	8

理事会報告

第59回 理事会

日時 令和4年9月3日(土)14時00分～

形式 Zoomによるオンライン

参加者 高橋(則) 高橋(英) 鈴木 安藤 山蔭
青木 鹿野 伊藤(喜)海藤 阿部 高橋(秀)
佐藤(直) 沼澤 荒井(利) 西田 佐藤(郁)
菅野 齋藤 菅原

1、各地区支部報告

【山形】10/14に開催を予定しているスキルアップ研修の準備をしている。

【村山】・今回の理事会より、星川理事の後任として佐藤直樹理事が出席している。

・10/29 認知症に関する研修会を開催予定、準備をしている。

【庄内】報告事項なし。

【最上】9/14に地区支部研修会を開催予定。県内の会員は参加可能。研修会に先立ち、地区支部理事会を開催する予定。

【置賜】・総会は書面決議歳、全議案が承認された。
・8/3.4の大雨災害に関して、地区支部会員に調査し報告した。

・10/29 地区支部研修会として、リスクマネジメント協会 梅田浩史氏を講師に迎えての研修会を予定している。2月の研修会では、ケアタウン総合研究所 高室成幸氏を迎えての研修会を計画している。両研修共に、県内の会員は参加可能。

2、各委員会報告

【専門職連携】

・9/10 多職種連携でご利用者の「食と栄養」を支える管理栄養士と題して研修会開催予定。参加申し込み者には、パスコード、研修資料を送る予定。

【講師・ファシリテーター養成】

〈講師養成研修〉

・11/19 ケアタウン総合研究所 高室成幸氏を講師に迎え、「講義・演習の際にZoomを有効に活用する方法について」研修会開催予定。

・11/26 清幸園ケアプランセンター 村山正市氏を講師に迎え、「講義・演習の具体的な展開方法につ

いて」研修会開催予定。

〈ファシリテーター養成研修〉

・12/3 ふくしの人づくり研究所 奥田亜由子氏を講師に迎え、「オンライン(Zoom)の講義の中での、ファシリテーターとしての役割について」研修会開催予定。

・今回の研修会は、過去3年間の受講者のブラッシュアップの目的もある。過去3年間の受講者への案内と新規受講者の推薦を9月下旬頃に行う予定。

【広報】

・ケアマネ通信第37号は10月上旬完成予定で、準備を進めている。発送作業について、日程決まり次第連絡する。

・9/11 ホームページ更新勉強会を行う予定。

【主任ケアマネ】研修会を企画しており、講師を選定し準備を行っている。

【財務】

・8/2 奥山会計事務所と打ち合わせを行った。事務局から出納入力できるアプリを事務局のパソコンにダウンロードし入力可能となった。

・監事変更について、書類や登記について確認する。

3、新規入会承認 新規入会申込者なし。

4、東北ブロック会議、東北ブロック研修会について

東北ブロックの各支部に開催時期についてメールで問い合わせ、時期が決まり次第、研修の内容について検討し、準備を進めていくこととなる。

5、その他

・研修受託について 研修受託準備委員会を設立し、今後検討を行う。

・佐藤副会長の業務について 副会長は継続だが、事務局員としては退職となる。今後、業務分担について検討が必要である。

臨時総会報告

日 時 令和4年11月12日(土)15時～
場 所 山形ビッグウイング 403会議室
形 式 ハイブリッド形式
参加者 議決権者総数 159名
出席議決権者 17名
委任者数 142名
総会員数 409名

〈総会成立確認〉

出席者数が定則に達し、総会は成立しました。

〈議長選出〉

正会員より、事務局推薦にて、議長は山形地区支部の山蔭隣氏が選出されました。

〈議事録署名人〉

正会員より、置賜地区支部の安藤栄吾氏、最上地区支部の西田直子氏が選出されました。

〈議事内容〉

【第1号議案】 監事の退任及び新監事の選出

村山紀子氏より、任期満了前に退任の申し出あり、新監事として、奥山亨氏の立候補の申し出があり、選出されました。
第1号議案について、賛成多数で承認されました。

【第2号議案】 村山地区支部理事の退任及び新理事の選出

星川知佳子氏より、任期満了前に退任の申し出あり、新理事として佐藤直樹氏の立候補申し出があり、選出されました。
第2号議案について、賛成多数で承認されました。



賛助会員の紹介

現在、賛助会員となってくださっている団体様を紹介します。
(敬称は略させていただきます)

- 一般社団法人 山形県医師会
- 一般社団法人 山形県歯科医師会
- 一般社団法人 寒河江市西村山郡医師会
- 一般社団法人 山形県薬剤師会
- 公益社団法人 山形県看護協会
- 一般社団法人 山形県理学療法士会
- 一般社団法人 山形県作業療法士会
- 公益社団法人 山形県栄養士会
- 一般社団法人 山形県歯科衛生士会
- 公益社団法人 山形県柔道整復師会
- 一般社団法人 山形市医師会
- 一般社団法人 鶴岡地区医師会
- 医療法人社団ベテル会 上山ファミリークリニック
- 佐藤眼科医院
- 社会福祉法人 酒田市社会福祉協議会
- 社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
- 社会福祉法人 庄内町社会福祉協議会
介護センターほほえみ
- 社会福祉法人 恩賜財団済生会
特別養護老人ホームながまち荘
- 酒田健康生活協同組合
にじの輪指定居宅介護支援事業所
- 社会福祉法人 いいで福祉会
在宅介護支援センターひめさゆり荘
- 社会福祉法人光風会 特別養護老人ホーム芙蓉荘
- 社会福祉法人 恵泉会 永寿荘在宅介護支援センター
- 社会福祉法人 みのり福祉会
特別養護老人ホームソーナ
- 社会福祉法人 羽黒百寿会 居宅介護支援センターかみじ荘
- 日本こども福祉専門学校
- 一般財団法人 日本総合研究所
- 中央法規出版(株)仙台営業所
- ウチシルベ(結不動産)
- 一般社団法人全国福祉用具専門相談員 山形県ブロック
- 株式会社櫻井建設
- 株式会社よねき
- 株式会社ウエルモ
- 株式会社Trim SK フリーシェルター
- フレアス在宅マッサージ山形
- 源泉堂薬局

介護支援専門員講師養成研修・ファシリテーター養成研修

～経験と知識を次世代のケアマネジャーへ伝える文化～

山形県介護支援専門員協会では、山形県より山形県介護支援専門員講師指導者養成事業を受託し、表記研修を開催しております。去る11月19日(土)、11月26日(土)の介護支援専門員講師養成研修は12名の方、12月3日(土)のファシリテーター養成研修は17名方から受講していただきました。

講師養成研修1日目、19日(土)「オンライン研修・講義&ワークショップテクニック～ロールプレーを通して講義手法を学ぶ～」講師：ケアタウン総合研究所 代表 高室成幸氏より、講師として、開催する講義の組み立て、進め方・ロールプレー・ワークショップから受講者へ気付きを促す方法から始まり、オンラインで行う講義の機器やシステム、使用方法・パワーポイントの資料作成方法等、多岐の研修内容に渡りました。

講師養成研修2日目、26日(土)「講師としてのリフレクション(省察)」講師：清幸園ケアプランセンター村山正市氏からは、講義、ワークショップを通して、自身が講師として登壇した場合を客観的に繰り返し、省察(自分のことをかえりみて考えめぐらすこと)が行われました。テーマには1日目受講後の省察等も含まれ、オンラインで行う講義の講師として、オンライン上のマナーやシステムの活用方法等を新たに学ぶ必要があることなどが挙げられました。

ファシリテーター養成研修12月3日(土)「オンライン(Zoom)の講義の中でファシリテーターとしての役割を学ぶ」ふくしの人づくり研究所 所長 奥田亜由子氏より、ファシ

リテーターの役割、集合・オンライン研修でのファシリテーターの違い、オンライン研修でのファシリテーター実践(オンライングループワーク・ロールプレー)・意見交換等が行われました。

今回、講師・ファシリテーター養成研修を開催するにあたり、各講師の皆様にはオンライン研修を軸に講義を組み立ててい

ただくように依頼しました。介護支援専門員の法定研修をはじめ、研修の開催方法、参加方法はオンライン研修が中心となり、オンライン研修において講師・ファシリテーターの役割を、改めて学ぶ必要があると考えました。実際、受講者、事務局、委員は、今回の各研修を通して、オンライン研修においてハードルの一つであるグループワークに慣れ、オンライン研修のメリットを感じる事が出来ました。

我々、介護支援専門員は短い歴史の中で数々の諸先輩より学び、自身の財産としてきました。立場により、その有益な財産を後輩に伝える必要があります。その伝え方も一部はオンラインへ変容しています。山形県介護支援専門員協会では、有益な財産を後輩へ伝え、利用者へ還元できる文化が継続できるように、今後も取り組んでまいります。来年度も本研修は開催されますので、今後とも関係者、会員の皆様よりご協力いただきますようお願いいたします。

(講師・ファシリテーター養成研修委員 高橋)



専門職連携委員会のオンライン研修会報告

「多職種連携でご利用者の「食と栄養」を支える管理栄養士」を担当して

令和4年9月10日 13:30～15:00

専門職種連携委員会研修会主催でオンライン研修が開催されました。「多職種連携でご利用者の「食と栄養」を支える管理栄養士」のテーマで管理栄養士さんに担当していただきました。非会員を含む20名の方に参加していただきました。

現在、理事をさせていただいておりますが、超高齢社会をリードする介護支援専門員の方と同じ土俵で、活動ができること。そして今回、専門職種連携委員会研修会でプレゼンテーションができたことは、大変貴重な経験になりました。

「多職種連携でご利用者の食と栄養を支える管理栄養士」と題して、伊藤&三浦のコラボレーションで行いました。前半は伊藤が、管理栄養士・栄養士の役割や栄養ケアステーションの紹介、栄養に関わる制度について、後半は三浦が、実践報告として栄養ケアステーション「栄養ケアもがみD-nya」の活動を紹介し、介入事例の提供などを行いました。

参加者からは「知らなかったことが多く、食の大切さを感じました」「今回の研修で管理栄養士は、身近な存在に感じました」「業務では関わりが少ない方(職種)ですが、いつでも相談できる専門職であると理解できました」などの感想をいただき、大変光栄に思うと同時に、今後の活動の糧になりました。

「食べることは生きること!」是非、皆さんに栄養の視点(栄養の目)を持っていただき、私達管理栄養士と繋がり、他職種連携してご利用者を支援していきたいと思っています。これからもよろしく願いいたします。

(管理栄養士 三浦・伊藤)

地区支部報告

村山 地区支部

村山地区支部では、10月29日(土)10:00~11:30『認知症のアセスメントについて』オンライン研修を開催しました。

会員及び非会員併せて32名の参加をいただき、無事終了することができました。

Zoom配信は、事務局のある「社会福祉法人すばる 特別養護老人ホーム醍醐」の地域交流室を、施設長様のお取り計らいを受けて、開催することができました。

配信環境の整備や場所の提供にご理解を頂き、深く感謝申し上げます。

また、講師には、山形県介護支援専門員研修講師・山形県認知症介護指導者の安達秀則様で、所属は社会福祉法人松寿会 地域密着型特別養護老人ホーム長生園 主任 生活相談員にお願いしました。業務の傍ら介護支援専門員の専門Ⅰや専門Ⅱ研修講師、認知症介護実践者・リーダー研修などの講師として日々活躍されており、ご多忙の中講師を引き受けていただきました。

認知症の方を支援するにあたり、認知症の人がその人らしく過ごせるようにするために、どのような方法が最善かを学ばせていただきました。

①ご本人の意向を尊重すること。②ご本人の望む生活を聞き取ること。③意思決定のプロセスを経て、チームで継続した支援をすること。

これらを、あらためて深く理解することができました。また、アンケート結果からも大好評のご意見を多数いただきました。本当にありがとうございました。

コロナ禍にあって、各地区支部の研修会や日本協会の研修会などがオンラインでどこでも受講できるようになり、介護支援専門員に従事する皆さんにとっては、今まさに必要な研修内容が会員だからこそ、その開催情報をいち早く知り、また、リーズナブルに受講できます。

自ら学ぶ姿勢を持ち続けられるように、自分自身にも活を入れていきたいと思えます。

今後も村山地区支部として、会員皆様に必要不可欠な情報発信をしていきたいと思えます。

この後、2月頃に2回目の研修会を予定しております。

よろしく申し上げます。 (村山地区支部 菅野)

置賜 地区支部

第1回研修会を令和4年10月29日(土)Zoomで開催しました。講師にリスクマネジメントオフィス梅田代表、一般財団法人リスクマネジメント協会リスクマネジメント研修インストラクターの梅田浩史氏をお迎えし、テーマは居宅介護支援事業所の「風水害対応BCP」を開催しました。参加者数は47名(会員42名、非会員5名)でした。限られた時間ではありましたが、BCPの考え方や計画を作成する時に参考となる気象庁のホームページやキキクルの活用、また、山形県や置賜地区のハザードマップを引用しての具体的な作成のポイント等を講義と資料で提供していただき、ました。参加者からは「参加してよかった」「どの資料を参考にするかよくわかった」「大変わかりやすく、できるところからすぐに取りかかりたい」などの具体的な感想と先生への感謝とお礼の言葉が数多くありました。

置賜地区支部第2回研修会は令和5年2月18日 13:00~16:00、ケアタウン総合研究所 代表 高室成幸をお迎えして、「居宅系・施設系『その人らしさ』を引き出すケアマネジメント」をテーマに居宅系の介護支援専門員だけでなく、施設系の介護支援専門員にも役立つ内容で計画しています。Zoom研修となりますので県内どここの地区からでも参加可能になりますので是非ご参加ください。

(置賜地区支部 伊藤)

在宅マッサージ 山形
プラス

**＼ご自宅で、施設で／
 マッサージ 鍼灸が受けられます!**

**在宅療養されている方々へ
 国家資格を持った施術師が伺います**

医療保険が使えます(※医師の同意書が必要です)

ご質問・ご相談など、まずはお気軽にお電話ください

023-635-2013

〒990-0022 山形市東山形1-2-38-103

—— 訪問可能エリア ——

山形市、上山市、天童市、寒河江市、東根市、村山市、中山町、山辺町、河北町、大江町、他

※効果には個人差があります。マッサージ・鍼灸によって症状が改善することを保証するものではありません。

理事会報告

山形 地区支部



令和4年10月14日(金)18:00~19:30の日程でSocial worker's office Oasis(社会福祉士事務所おあしす)代表 大江祥子先生を講師にお迎えし、「スーパージョンのすすめ」のテーマでWeb会議システムZoomによるウェビナー形式で研修会を行いました。この研修会は全5回で構成される「シリーズで学ぶスーパージョンプ講座」の第2回として開催されました。

第1回の「教えてスーパージョンプ」ではスーパージョンプとは何か、対人援助職としての自己研鑽の重要性、地域や社会への参画や人材育成についてのお話をいただきました。それらを基礎に行われた今回の講座では、支持的・教育的・管理的機能の内容を詳細について、スーパージョンプを受けることにより得られること、バイザーがバイジーに目配りしておくべきポイントなどを教えていただきました。また、実際にスーパージョンプを体験された方のインタビューでは、新たな視点を学べた、事例を俯瞰して見る事が出来るようになった、自分自身の考えが整理され何をすべきか見えてきた等、自身の成長を実感できるような感想がありました。

第3回「やってみようスーパージョンプ」は令和5年1月20日(金)18:30~20:30で予定されています。第1回、第2回に参加されていない方でも参加が出来るようにYouTubeの限定配信も行います。定員15名の少数密着型で、参加者も講師と意見交換がしやすい講座です。参加ご希望の方は是非事務局にお問い合わせください。

(山形地区支部 海藤)

最上 地区支部

当最上地区支部では、予想外の大雪の中、令和4年12月22日(木)に最上地区地域包括支援センター連絡協議会様と共催『もがみ退院支援ルール』活用研修会を開催しました。最上保健所井上敦子氏と東海林正憲氏を講師に迎え、もがみ退院支援ルール・もがみネットの運用のポイントについてご講演をいただきました。医療関係者・介護支援専門員など多職種で今後の支援ルールについてグループディスカッションで活発な意見交換をすることができました。今回の意見をもとに皆で考え、最上地域にあった支援ルールを構築していきたいと思えます。

令和5年1月18日(水)には山形県高次脳機能障がい者支援センター医師豊岡志保氏と同センターコーディネーター須貝緋登美氏を講師に迎え、『高次脳機能障害に寄り添う ～疾患の基礎知識と支援の在り方について～』をテーマにご講演をいただきました。高次脳機能障がい症状による支援の仕方など今後につながる研修となりました。

最上地域は皆様もご存じの通り、県内でも有数の豪雪地域であり、冬季間の研修会の開催にあたっては、会場の雪で駐車場は確保できるのか、講師が無事到着できるのか、などの豪雪地帯ならではの問題がありました。コロナ禍になり、オンラインでの研修が主流となり、そのような雪での心配も少なくなり、懐かしく感じるようになりました。しかし、オンライン研修でも機器の不具合、ネット環境の不安定などの対応が必要であり別の意味での心配事も増えました。研修を開催するにあたり、そのようなリスクにも対応できるように備えていきたいと思えます。

今後も会員の皆様の自己研鑽になるような研修を企画していけるように支部役員一同一丸となり頑張っていきたいと思えますのでよろしく願いいたします。

(最上地区支部 高橋)

庄内 地区支部

庄内地区支部では、令和4年11月18日(金)13:30~15:30に、オンライン(Zoom)で、第9回庄内ケアマネジャー大会を開催しました。この度の大会のテーマを、「私が経験した困った事例～みんなで共有、安心しよう～ コロナ禍やハラスメントで困った事例」とし、参加者から4事例を発表頂き、それについてグループワークを行いました。参加者は27名でした。

「久しぶりにケアマネ同士のグループで話すことが出来てほっこりしました。」「対面ではなかったが、情報共有や日頃の業務のねぎらい、自分の支援の仕方の振り返り等ができて有意義だった。」「事例は、とても身近なものであり、共有することが多いものでした。その分その対応ついでの意見も出やすく、他の方の意見より気付きを得られる大会でした。」「介護支援専門員協会の庄内地区支部の研修会へ初めて参加させていただきました。緊張し参加し

ましたが、アットホームな印象を持ちました。」など、参加者からは大変好評でした。

今回の庄内地区支部の研修会は、令和5年2月17日(金)18:30~20:30に、オンライン(Zoom)で、Social worker's office Oasisの大江祥子氏より、「スーパービジョンについて(仮)」をテーマに講師を務めていただき、研修会を開催したいと考えています。

(庄内地区支部 阿部)

各専門職から

Professional Comment
プロフェッショナル・コメント

精神保健福祉士

似て非なるもの

介護支援専門員の皆様、いつも大変お世話になっております。以下、親しみを込めてケアマネさんと呼ばせていただきます。今回は精神保健福祉士という立場から、日頃ケアマネさんに助けていただいていることを思いつくままに書いてみたいと思います。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、精神保健福祉士は「精神医学の」ソーシャルワーカーという意味でPSWと称されてきました。最近ではメンタルヘルスの課題全般へ関わっているということでメンタルヘルスソーシャルワーカー(MHSW)と表記するようになってきており、医療のみならず、福祉、行政、司法などさまざまな領域で活動しております。とりわけ私のような精神科の病院で働いている場合は相談室や連携室などと呼ばれる部署において、受診や入院の相談を受けたり、退院時の生活環境の調整を行ったり、ニーズに合わせた包括的な支援をマネジメントしたりしております。

思い起こせば、私が相談員として就職したのが平成12年で、ちょうど介護保険制度の施行と同じ年でした。今でこそ介護と医療の連携は手引きや様式が整備され、病院における目的別連絡先も明確に分かれてきていますが、その当時は病院に用がある際は「とりあえず相談室へ」とお越しいただくことも多く、ケアマネさんともおのずと顔の見える関係性ができていたように思います。

さて、そんなケアマネさんと私たちの接点としては、初診時や退院時の連携が多いでしょうか。はじめて受診したり入院したりした患者様の場合、その方がそれまでどのような生活をしていた方なのか、今後どういった状態を目指したらよieldろうか、などと考えていく際に、ケアマネさんか

らいただく情報は、初期段階でとても重要になります。入院時情報提供書をいただく際に、ちょっとした補足でご本人様の健康的な一面や人間味あふれるエピソードをお聞きすることもあり、その人本来のいきいきとした人物像をイメージしやすかったりします。また、退院時においては、病院側の都合で退院の期日が先に決まっていたり、短期間での環境調整をお願いしたりすることも少なくないかと思えます。心苦しい限りです。そのような場合でも、ケアマネさんから柔軟かつ迅速に対応いただけるので心強いです。他にも、医療サービスや対応に対する不満や怒りの声を、ケアマネさんを通してお聞かせいただくこともあります。ケアマネさんたちが日頃から相談しやすい関係を築いていらっしゃるからこそと思います。そのような内容の話こそ積極的に共有させていただくことは病院にとっても有難い事として、個別ではご本人やご家族の意向を取り入れたり、組織としてもサービスの改善向上に繋げさせていただいたりしております。

ソーシャルワークは、「クライアントがいるところから始め、傾聴し、生活者としての視点に立脚してかかわっていく」ことを基本としています。介護支援専門員と精神保健福祉士は、そういう点でもよく似ていると思うし仲間のようなのだと思っています。今後も似て非なるもの同士、お互いの専門性を高め合い、横の連携を強固にしながら、それぞれの立場を揺るぎないものにしていきましょう。

(山形県精神保健福祉士協会 小林武史)

各専門職から

Professional Comment
プロフェッショナル・コメント

理学療法士

理学療法士は、寝返る、起き上がる、立ち上がる、歩くといった日常生活に欠かせない基本動作や運動機能の維持・回復、障がい予防等を目的に、運動療法や物理療法などを用いて、自立した生活が送れるように支援することを生業としています。中でも、介護支援専門員の皆さんとかかわりの深い生活期では、在宅や施設などで「その人らしい生活を実現する」ことを目的とした理学療法を展開します。養成校や実習の中で、諸先輩方から「疾患」に対してではなく「人」に対して理学療法を実施する。ということを教え込まれてきた記憶があります。

理学療法士の強みは、①身体機能や痛みの評価・分析ができる ②基本動作能力改善のための助言ができる ③最適な理学療法プログラムが作成できる ④症状悪化防止を目的に正しい動きの学習と助言ができる ⑤痛みや運動機能改善のため、運動療法や物理療法ができる ⑥自立した生活と、生活の質の向上を目指したサポートができることです。そして、そうありたいと日々精進しています。

ちょうど1年ほど前の研修会『作業療法士・理学療法士とケアマネジャーとの連携について』の感想の中にあった、リハ職とこれまで以上に連携していきたいと思いました。私た

ちの仕事は改めて利用者が、障害など後遺症が残っても自分らしく生きていくことを支える専門職種であることを学ぶ事が出来ました。仲間作りは本当に大切な宝物だと思いました。との言葉に元気をいただきました。この場を借りて、私が思う理学療法士の使い方をもう一度述べさせていただきます。

やっぱり、医療・リハビリ職は、「意思の疎通が難しい」と思いませんか？「こんなこと聞いてもいいのかな？」とためらってしまうこともあるかもしれません。でも、誰のための連携でしょうか。ちょっと具体的に質問してもらえるとうれしいです。「〇〇が上手くできないのですが、改善は可能ですか？」「〇〇ができるようになると安心して生活できるのですが、いい方法はありませんか？」リハビリ職は、基本的におせっかい。聞かれたこと以上にしゃべりたくなってしまいます。きっといろいろと教えてくれるはず。顔の見える関係が作れるとうれしいです。誰か1人、身近なりハスタッフを捉まえてください。そこから輪が広がるはず。これからもどんどん理学療法士を使って育ててください。皆さんのお役に立てる理学療法士になれるよう頑張っていきたいと思えます。
(山形県理学療法士会 吉田京子)

わんコラム



担当のウェルシュコーギーのもえです。今回は、西田さん家の「チョコくん」を紹介するね



ボクはミニチュアダックスフンドのチョコです。年齢は13歳、人間だと70歳くらい。

すっかりおじいちゃんですが、家族みんなを笑顔にすることがボクの役割です。定期健診と散歩、食後の歯磨きガムを食べることで介護予防につとめていきたいです。いつかもえちゃんと一緒に遊べることを目標にして!



チョコ先輩!もえも元気で歳を重ねよう、日々生活していくね。しっかり食べるためには、「歯」は大事にしなくちゃいけないから、まずは歯磨き!!



もえちゃん・・・それは「お散歩用爪一ネス」です。普通は歯磨きに使いません!!それに、歯磨きは・・・寝転がってするものでない!とママは思うのですが('Д')

編集後記

昨年は、夏の甲子園で仙台育英高校が優勝し、東北全体が喜びの歓声に沸きました。今年の干支はウサギです。卯年の守り本尊は文殊菩薩で「3人寄れば文殊の知恵」という言葉からも、一人では困難なこともケアマネジャーを中心に今年もチームで取り組んでいきましょう。

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会誌 ケアマネ通信 やまがた No.38

発行日/令和5年2月
発行人/高橋 則好
発行所/一般社団法人 山形県介護支援専門員協会
〒990-0037 山形県山形市八日町2丁目1-26
TEL 023-664-2120 080-6293-6735 (携帯)
FAX 023-664-2130
E-mail : yacm@gc4.so-net.ne.jp

印刷・製本/田宮印刷株式会社
〒990-2251 山形市立谷川三丁目1410-1
TEL 023-686-6111 FAX 023-686-6114